

木の大学講座2017
「木と修復・保存」
特別講座配布資料

翻訳・編集：箕輪知也
20170512 ©2017

PRESENTATIONS OFFERED BY ROGER GRIFFITH, ASSOCIATE CONSERVATOR

MoMAのアソシエイト・コンサバター^{*1} ロジャー・グリフィス氏が携わってきたプロジェクト

^{*1} コンサバター

作品の保存修復担当者
のこと。ひとくちに保存修
復と言っても、その業務
範囲は多岐に渡る。

非永続性とエントロピー： 現代美術作品の設営にあたっての共同作業

要旨：近年、現代美術の展覧会にはますます多様な作品が含まれるようになってきました——サイズや重さはバラエティに富み、本質的にはかないもの、表現が有機的なもの、見かけによらずもろいものもあれば、意図的に無秩序なものや強迫観念的に細かいものまで実に様々です。複雑でコンセプチュアルなインスタレーションは、キュレーター、保存修復担当者、レジストラ^{*2}、展示デザイナーらがアーティストと積極的な共同作業をすることで実現されており、その様子はMoMAが主催する様々な展覧会のケーススタディから明らかになっています。この講義では、MoMAの展覧会における標準的な準備と設置の方法と修復保存の処置とメンテナンスの方法が、それぞれの展覧会にどのように適用されるのかということを説明します。作品の設置計画と展示への取り組み方について、MoMAには長年にわたる伝統がありましたが、スタッフたちはアーティストからの挑戦を喜んで受け入れその共同作業に意義を見出してきたのです。

^{*2} レジストラ

作品に関するさまざまな情報の管理をする担当者のこと。作家名・作品名・サイズなどの情報管理はもちろん、展覧会や貸し出して作品が移動する場合はその記録を取り、移動のスケジュールも管理する。

レイヤーをめくってみる： アイリーン・グレイのブリックスクリーン

要旨：デザイナー兼建築家として活躍したアイリーン・グレイ（1879–1976年）は、そのキャリアの中でいくつかのラッカーブロックスクリーン（ラッカー「ブリック」スクリーン）と呼ばれる漆塗りの間仕切りをデザインしました。約15点のスクリーンが現存していますが、この研究では出自が明らかな10点の白黒のスクリーンに焦点を絞っています。スクリーニング検査、技術的な分析、素材の分析など、アーカイブを徹底的に研究することで、10点のスクリーンの製造方法が異なっていたという仮説を裏付けることができました。この研究では、これら10点のスクリーンの歴史・起源・製造方法・状態・使われ方および素材の分析について、それぞれの痕跡をたどって突きとめた結果を記録しています。彼女が残した手紙や日記、分析結果を考察したことで、私たちはラッカーブリックスクリーンのデザインがどのように進展したのかを知ることができ、またこのスクリーンに関する未発表資料をより深く理解することができたのです。

建築模型： 素材と制作と修復の実施要綱

要旨：この講義では、MoMAが所蔵しているの建築模型の保存修復、展覧会、展示のガイドラインについて説明します。MoMAが初めて所蔵し

Impermanence & Entropy: Collaborating Efforts Installing Contemporary Art

ABSTRACT: Contemporary art exhibitions increasingly include artworks that vary in size and weight, are ephemeral in nature, organic in expression, sometimes deceptively frail, purposefully disorganized, or obsessively detailed. The ways in which curators, conservators, registrars, and exhibition designers are engaging in active collaboration with artists to realize complex conceptual installations are illuminated in these case studies from various exhibitions organized by The Museum of Modern Art. This lecture discusses how the museum's standards of exhibition preparation and installation, as well as conservation treatments and maintenance are adapted to fit the necessary needs for that particular exhibition. Despite long-standing traditions in approaches to installation planning and display, The Museum of Modern Art staff embraced the challenges and recognized the effectiveness of working collaboratively.

Peeling Back the Layers: Eileen Gray's Brick Screens

ABSTRACT: Eileen Gray (1879–1976), renowned designer and architect, created several lacquer block or 'brick' screens during her career. Although there are approximately 15 extant screens, the focus of this study is limited to 10 white and black screens with known provenance. Exhaustive archival research, screen examination, and technical and material analyses confirm the hypothesis that these 10 screens are dissimilar in fabrication. This study tracks and records the history, provenance, fabrication, condition, use, and material analysis of these 10 screens. Letters, journals, and analyses show the design evolution of the screens and provide further insight into unpublished material on Eileen Gray's lacquer brick screens.

Architectural Models: Materials, Fabrication and Conservation Protocols

ABSTRACT: This lecture describes the development of protocols for the conservation, exhibition, and display of the architectural

た建築モデルは、1932年に製作され展示されましたが、現代の建築模型も積極的に収集されています。模型はスチレン、ボール紙、フォームコアなどの非揮発性製品を含む様々な素材を使用して製作されています。私たちは、建築模型の経年変化の傾向と潜在的に問題が起こりうるパーツを特定するために、材料と製作方法についての調査をし、サイズ・製作者・製作年月日・製作目的などの模型に特化した調査項目を設けました。その結果、模型の製作目的と機能は製作方法とともに、模型の劣化に大きく関係してくるということがわかりました。実際に建築模型の保存修復には、その展示と保管について具体的に記された書類から学ぶところが多いということが実証されました。また、展覧会で借りている作品のちょっとした修復を貸し手の許可なしに行うことができるようにする契約や修理道具の準備、メンテナンスに関するスタッフ教育など、模型を展示する際に推奨されることについても解説をします。

イームズのラ・シェーズとその商品化への道のり：技術的研究

要旨：この論文は、ミッドセンチュリーのデザインアイコンであるレイ & チャールズ・イームズのラウンジチェア「ラ・シェーズ」の製作と歴史について記述しています。ラ・シェーズはその構想から半世紀以上を経た1996年からようやく市販されるようになりました。そのプロトタイプは、戦後の安価な家具の需要に応えるべく1948年にMoMAが主催した「低コスト家具デザイン国際コンペ」にイームズ夫妻が出展した椅子のひとつでした。1973年にMoMAのスタディコレクションに収蔵されたこのプロトタイプは、最近になって保存修復課による専門的な検査を受けました。この分析は、具体的には断面顕微鏡、X線撮影、エネルギー分散型X線分光法およびフーリエ変換型赤外分光法（FTIR）を応用した走査型電子顕微鏡を使用して行われ、イームズ夫妻がプロトタイプ制作時に残した膨大な資料の研究と照らし合わせながら進められました。その結果、その椅子が持つ構造と商品化に時間がかかった原因が見えてきたのです。ドイツの家具メーカー、ヴィトラが制作した現行品と1948年のプロトタイプの素材と構造を比較しながら、MoMAの保存修復担当者たちは、50年後の椅子に起きた変化とそれが審美的にどういった結果をもたらしたかということについて調査をしました。この研究はまた、イームズ夫妻の直感的かつ創造的な制作過程とプロトタイプの歴史にも焦点を当てています。「白」という象徴的な色で量産されるに至るまでに、このプロトタイプは何度も塗り替えられてきたのです。

キッチン・ストーリーズ: コルビュジエとペリアンによるユニテ・ダビタシオンのモデュールキッチン(1948年)

要旨：ル・コルビュジエが提唱した「輝く都市」論の実践のひとつとして知られる集合住宅「ユニテ・ダビタシオン」は、シャルロット・ペリアンとの共同設計のもとフランスのマルセイユに建設されました。この講義では、その集合住宅のうち321室に造りつけられたキッチンユニット「キュージューヌ・アトリエ・ル・コルビュジエ・タイプI」について詳しく解説をしていきます。効果的な修復計画の説明に加え、広範囲にわたる研究・分析・調査旅行の結果を通じて、このキッチンの重要性を認識してもらえる内

model collection of the Museum of Modern Art, New York. The earliest models in the museum's collection were fabricated and displayed in 1932, whereas the contemporary models representing current architectural projects are actively collected. The collection is fabricated from a wide range of materials including nonarchival products such as styrene, cardboard, and foam core. A survey of the model collection examined the materials and methods of fabrication to identify common condition trends and areas of potential problems. Survey categories specifically designed for models were included such as scale, production credit, model date, and purpose. Survey results found that the purpose and function of the model, along with fabrication methods, largely contributed to the model's degradation. In practice, it was demonstrated that the preservation of architectural models benefits from written procedures specifically for their display and housing. Exhibition recommendations for models include written conservation waivers for loan agreements to facilitate minor treatment during exhibition, preparation of repair kits for traveling shows, and education of staff on the maintenance required for an exhibit with models.

The Eameses' La Chaise and its delayed production: a technical study

ABSTRACT: This paper describes the manufacture and history of the lounge chair La Chaise by Ray and Charles Eames, a midcentury design icon that has only been available to consumers since 1996, half a century after it was conceived. Answering a post-war demand for economical furniture, the prototype was one of several chairs the Eameses entered into the 'International Competition for Low-Cost Furniture Design' at the Museum of Modern Art (MOMA) in New York in 1948. Housed in MoMA's study collection since 1973, the La Chaise prototype has recently undergone a technical examination by the Conservation Department. This analysis, including cross-section microscopy, X-radiography, scanning electron microscopy with energy dispersive x-ray spectroscopy, and Fourier transform infrared spectroscopy (FTIR), combined with study of the Eameses' extensive documentation of the processes used to make the prototype, has provided insight into the chair's construction and its delayed production. Comparing the materials and structure of the 1948 prototype with a piece of the contemporary edition, produced by the German furniture manufacturer Vitra, MoMA conservators investigated the alterations made to the chair 50 years later and their aesthetic consequences. The study has also illuminated the Eameses' intuitive creative process and the history of the prototype, whose overall color changed several times before it was mass produced in its now iconic white.

Kitchen Stories: Le Corbusier and Charlotte Perriand's Modular Kitchen for Marseilles' Unité d'Habitation (Radiant City) 1948

ABSTRACT: A built-in kitchen unit from the Unité d'Habitation, Marseilles, France, Cuisine Atelier Le Corbusier, type 1, designed by Charlotte Perriand in cooperation with the Atelier Le Corbusier will be described in detail. A total of 321 apartments of the Unité were furnished with this kitchen. The lecture will describe the effective treatment plan and acknowledge the importance of this kitchen through extensive research, analysis and study trips. The

容になっています。このキッチンユニットの分析結果、意思決定のプロセス、修復方法は、現在 MoMA のコレクションになっています。

youtu.be/1FZZrxS9N0Q
moma.org/explore/inside_out/2013/04/03/le-corbusier-kitchen-conservation-examining-the-cross-sections/
moma.org/explore/inside_out/2013/01/07/le-corbusier-kitchen-conservation-dismantle-reconstruct-and-convert/
moma.org/explore/inside_out/2013/02/07/le-corbusier-kitchen-conservation-getting-resourceful/
moma.org/explore/inside_out/2013/03/13/le-corbusier-kitchen-conservation-focus-on-design/

つけたり、消したり： MoMAの建築、デザイン部門が所蔵している照明器具

要旨：MoMAにおけるデザインオブジェクトの解釈は、1932年にデザイン部門が始まって以来変わり続けています。初期の展覧会では、コードやときにはプラグも見せながら、ランプを機能的な照明器具として展示していましたが、その後、コードとプラグを外した状態で展示されるようになりました。このように静的な彫刻として捉えられた照明器具は、常にプラグを外したりスイッチを切った状態で展示され、素材・製造方法・形状が強調される一方、その機能は無視されるようになりました。近年では、デザインオブジェクトの意図された機能を見せながら展示をしたいというキュレーターの要望によって再び変革がもたらされました。電化製品の概念に、コード・スイッチ・プラグ・電球などの重要な要素が再び含まれるようになったのです。この論文ではMoMAの建築・デザイン部門が所蔵する照明器具の歴史を辿りつつ、それらの事例を紹介していきます。具体的には、それらの照明がどういった素材でできており歴史的にいかに重要でどのように機能するかということを説明します。それはモノの「寿命」についての問題提起をすることにもなるでしょう。

ブルース・コナーの「チャイルド」： その生と死と復活

要旨：ブルース・コナーの「チャイルド」は、キャリル・チェスマンの死刑判決に対する回答として1959年に創作された作品で、チェスマンはロサンゼルスで起きた女性の誘拐と性的虐待の罪で投獄されていました。コナーはこの世間の注目を集めた死刑判決と彼がその判決に対して抱いた直感的な嫌悪感に、醜い死体のような子供の彫刻を制作することで応えたのです。鋳造用の蠟から作られたこの肖像は、ベルトと麻ひもを使って木製のハイチェアに縛られて、頭は後ろに傾き、口はぽかんと開いているか叫んでいるようで、身体は引き裂かれたナイロンストッキングで覆われています。「チャイルド」は1970年にMoMAによって購入されました。この彫刻はその後3つの会場に貸し出されましたが、MoMAではこれまでに一度も展示されたことがなく、コナーの回顧展ですら展示がされませんでした。この講義ではプロジェクトの3つの主な側面——「チャイルド」の歴史とMoMAにおけるその状態の推移、保存修復のプロセス、またその処置を記録した文書と分析について概要を説明していきます。

https://www.moma.org/explore/inside_out/2016/07/06/bruce-conner-child-conservation/

analytical results, the decision-making process, and the conservation treatment of the kitchen unit is now in the collection of The Museum of Modern Art.

youtu.be/1FZZrxS9N0Q
moma.org/explore/inside_out/2013/04/03/le-corbusier-kitchen-conservation-examining-the-cross-sections/
moma.org/explore/inside_out/2013/01/07/le-corbusier-kitchen-conservation-dismantle-reconstruct-and-convert/
moma.org/explore/inside_out/2013/02/07/le-corbusier-kitchen-conservation-getting-resourceful/
moma.org/explore/inside_out/2013/03/13/le-corbusier-kitchen-conservation-focus-on-design/

Turn it On: Turn it Off – Lighting in MoMA’s Collection of Architecture and Design Department

ABSTRACT: The interpretation of design objects at the Museum of Modern Art, New York (MoMA) has continued to change since the inception of the Design Department in 1932. The museum’s early history begins by exhibiting lamps as functional objects that were illuminated, revealing cords and occasionally plugs. More recently, the museum has exhibited lamps with cords and plugs removed. Thus viewed as static sculptures, lighted objects were routinely displayed unplugged or switched off, highlighting the object’s material, manufacture and form but negating its function. Today, the museum has seen a renaissance by curators in the desire to exhibit design objects as they were intended to function—initiating the concept of electrified design objects to once again include essential components such as cords, switches, plugs and bulbs. This paper traces the history of lighted design objects from the Architecture and Design collection at MoMA and presents case studies, illustrating examples of material, the importance of historic components, and examining the consequences of function, which raises questions of the “useful” life of the object.

The Life, Death, and Resurrection of Bruce Conner’s CHILD

ABSTRACT: Bruce Conner’s CHILD was created in 1959 as a response to the sentencing of death-row inmate Caryl Chessman who had been incarcerated for the kidnapping and sexual molestation of a woman in Los Angeles. Conner responded to this high-profile capital punishment case and his visceral repulsion to it by creating a frightening sculpture of a deformed corpse-like child. Made from casting wax, the figure appears strapped to a wooden highchair with belt and twine, the head tilted backwards with a gaping or screaming mouth, and body veiled in torn and stretched nylon stockings. CHILD was acquired by MoMA in 1970, and while the sculpture was lent to three venues since its acquisition it has never been on view at MoMA nor included in a Conner retrospective until now. This lecture will overview three main aspects of the project: the history of CHILD and its condition at MoMA, the conservation treatment process, and the documentation and analysis implemented to record the treatment.

https://www.moma.org/explore/inside_out/2016/07/06/bruce-conner-child-conservation/

マシュー・バーニーの「Stadium」: 素材を置き換える処置

要旨: マシュー・バーニーの1991年のミクストメディア「Stadium」はMoMAの所蔵作品のひとつで、アーティストが製作したプラスチックの額とそこにある紙に鉛筆で描かれたドローイングで構成されています。透明なポリ塩化ビニル(PVC)のフィルムでできた2つの袋が半透明のゲルで満たされており、額に縫いつけられたベルクロの留め具によって額に固定されています。1993年の収蔵からほどなくして、その袋はプラスチックと内容液の自然な劣化にともない変色・変形し、オブジェクトの全体的な外観はアーティストの本来の意図がわからなくなるほど損なわれてしまいました。劣化した袋は、バーニー自身と彼のスタジオ、MoMAの学芸員の共同作業のもとで制作された新しい複製品に取り換えられました。その素材のリサーチは多岐にわたり、電子産業や生物医学産業で使用される異色なものにまで及んでいました。この論文では「Stadium」の処置をひとつの例にあげ、現代美術の保存修復において頻繁に提起される素材への挑戦について説明しています。芸術作品の構成要素を置き換えることに関する倫理的かつ技術的な問題、またそのような介入の仕方がその作品の真正性をどのように変えうるのかということについても検証しています。

シャルロットの corsset: ニトロセルロースで コーティングされた皮革の保存修復と調査

要旨: シャルロット・ペリアンの回転肘掛け椅子はMoMAの収蔵品のひとつですが、このプレゼンテーションではこの椅子特有の問題に対する革新的な対処方法について説明します。また、この種の複合材料の保存・修復問題を話題にし、ニトロセルロースでコーティングされた皮革の開発・製造・商用利用について踏み込んだ考察を行っていきます。このニトロセルロースという半合成素材は、19世紀後半に大きな皮革を裁断する機械が製造されてからの短い間に主に利用されていたようですが、20世紀半ばにはセルロースアセテート、ポリウレタン、ビニール(PVC)などのプラスチックに取ってかわられてしまいます。モダンデザインにとっての20世紀初頭はワクワクするような新しいイノベーションの時代であり、ペリアンの椅子はこれらの新しい素材と技術をふんだんに取り入れたものでした。しかしこれらの材料はまた、経年変化や劣化といった予期せぬ結果をもたらし、私たちはそれらを保存修復するという新たな課題に直面したのです。

倉俣史朗: アクリルと木材を用いた初期デザインの舞台裏

要旨: この講義では、倉俣史朗の初期デザインとして知られる「ミス・ブランチ」、「オバQランプ」、「変型の家具 サイド2」(オリジナルのプロトタイプ)などの製作方法と技術について、これまでに論じられることのなかった事実を明らかにしていきます。井上隆夫氏(アーティスト、デザイナー、倉俣史朗デザインの研究者)との共同プレゼンテーションで、司会進行はMoMAのロジャー・グリフィスが務めます。この講義ではまた、MoMAの保存修復の手順やケーススタディ、所蔵作品についても言及する予定です。

Matthew Barney's "Stadium": A Treatment of Replacement

ABSTRACT: Matthew Barney's 1991 mixed media work Stadium, in the collection of the Museum of Modern Art (MoMA), New York, comprises a pencil drawing on paper within a plastic frame produced by the artist. Two packs fabricated from clear polyvinyl chloride (PVC) film and filled with a once translucent gel are attached to the frame using sewn Velcro tabs. Shortly after its 1993 acquisition, the packs became discoloured and misshapen through the natural degradation of the plastic and the internal liquid, unacceptably compromising the object's overall appearance and the artist's original intent. The degraded packs were replaced with new facsimiles produced in collaboration with Barney, his studio, and the curatorial department of MoMA. Extensive material research encompassed unconventional materials from the electronic and biomedical industries. Using this treatment as an example, the paper addresses the material challenges frequently posed in the preservation and conservation of contemporary art. The ethical and technical complications associated with replacing components of works of art and how the circumstances of such interventions might modify the authenticity of the altered artwork are also examined.

Charlotte's Corset: The conservation and investigation of cellulose nitrate coated leather

ABSTRACT: This presentation will describe the innovative treatment solution for the particular problems inherent to the Charlotte Perriand Rotating Armchair in the MoMA collection, address the conservation issues of this type of composite material, and explore the development, manufacture and commercial use of leather coated with cellulose nitrate. This semi-synthetic material was most likely utilized for a short time after machines were produced to split large leather hides in the late 1800s, and before cellulose nitrate was replaced by plastics such as cellulose acetate, polyurethane, and vinyl (PVC) after the mid-20th century. The early 20th century was a time of exciting new innovations for modern design, and the Perriand chair fully incorporated these new materials and technologies. However, the materials also created unforeseen consequences in the ageing and degradation of the objects made from them and new challenges for their preservation and treatment.

Shiro Kuramata Lecture – “Behind the Scene Conversations of Shiro Kuramata's early designs in Acrylic and Wood.”

ABSTRACT: This presentation unveils the never before discussed early fabrication and techniques of Shiro Kuramata's early designs such as the “Miss Blanche Chair”, “Oba Q Lamp” and “Furniture in Irregular Forms Side 2 Cabinet” (Original Prototype). Roger Griffith from the Museum of Modern Art (MoMA) New York will moderate this presentation between Mr. Takao Inoue, Artist/Designer and Researcher of Shiro Kuramata's Designs. The presentation will also introduce MoMA's conservation protocols and collection as well as introduce case studies of conservation objects.

BIOGRAPHY

ロジャー・グリフィス氏 バイオグラフィ

ロジャー・グリフィス氏は1998年よりニューヨーク近代美術館(MoMA)の保存修復部門においてアソシエイト・コンサヴァターを務めています。専門は近現代美術の彫刻、近現代の建築・デザインの分野におけるオブジェ全般。MoMAで働きだしてからは多くの展覧会に携わると同時に、保存修復に関するさまざまなテーマについて論文を発表し講演をしてきました。最新の研究では、物理的にはかない素材を使用した現代美術作品の展覧会設営・保存修復・メンテナンス・保管に関して、専門家たちがどのように協働するのかということについて調べています。

2017年1月から6月までの半年間はサバティカル^{*3}で日本に滞在しており、美術館や美大などの教育機関で客員講師として講義・ワークショップ・討論会を行ったり、シンポジウムに参加したりしています。また、近現代美術の研究機関と共同で保存修復に関する調査を行い、コレクションの管理についてのガイドラインと実施方法について議論を展開させる予定です。これらの講義などは主に教室・会議室などで行う予定ですが、アーティストのスタジオ・コレクション(パブリックコレクションとプライベートコレクションの両方)・製造業者・製作者・私立の保存修復スタジオなども積極的に訪問する予定です。日本の大学には近現代美術、特に彫刻やデザインオブジェクトの保存修復を学べる学部がほとんどないため、このプログラムは美術作品の管理や研究を志す日本の若者にとって、非常に貴重な機会になることでしょう。

*3 サバティカル

研究や旅行のために本来7年ごとに大学教授などに与えられる1年または半年の有給休暇。

経歴

- 1991- ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- 1993 シャーマン・フェアチャイルド・センター(保存修復課)学芸員
- 1996 イギリス・ノーウィッチ、イースト・アングリア大学
セインズベリー視覚芸術センター学芸員
- 1997 イギリス・ロンドン、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートと
ヴィクトリア&アルバート博物館の共同プログラムにて修士号を取得
- 1997 アムステルダム市立美術館学芸員
- 1998- ニューヨーク近代美術館保存修復課アソシエイト・コンサヴァター

論文・講演

- 2008 「非連続性とエントロピー：現代美術作品の設営にあたっての共同作業」
『JAIC (米文化財保存修復学会会報)』第47号、3-13頁
- 2012 「レイヤーをめくってみる：アイリーン・ 그레이のブリックスクリン」
『装飾：応用芸術の保存』130-137頁、ウィーン国際会議、文化財保存国際研究所、オーストリア・ウィーン
- 2015 「イームズのラ・シェーズとその商品化への道のり：技術的研究」
『Future Talks 015 プロセス、デザインすること、現代美術の素材・技術・修復保存の戦略』、ピナコテーク・デア・モデルネ美術館内ディ・ノイエ・ザムルング、ドイツ・ミュンヘン
- 2016 「NY近代美術館におけるジョアン・ミロのブロンズ彫刻の保存修復」、
米加文化財保存修復学会合同年次総会(論文はまもなく出版予定)、
カナダ・モントリオール
- 2016 「ブルース・コナーのチャイルド：その生と死と復活」
『It's All True: Bruce Conner』、カリフォルニア大学出版

ROGER GRIFFITH

Associate Sculpture and Objects Conservator
in the Department of Conservation
at the Museum of Modern Art New York



Roger Griffith is an Associate Sculpture and Objects Conservator in the Department of Conservation at the Museum of Modern Art New York since 1998. He specializes in Modern and Contemporary Art Conservation including Fine Art Sculpture as well as Design Objects from the Architecture and Design Department.

He received his MA from the Royal College of Art/ Victoria & Albert Museum London England in 1997. Prior to MoMA he was a Fellow at the Sherman Fairchild Center for Objects Conservation, Metropolitan Museum of Art, New York(1991-93); University of East Anglia: Sainsbury Centre for Visual Arts in Norwich England (1996); and The Stedelijk Museum, Amsterdam (1997). He has worked on many exhibitions during his tenure at MoMA and published and lectured internationally on various topics of conservation. His most recent research examines the nature of the collaborative process of art professionals in regards to the exhibition installation, preservation, maintenance, and storage of ephemeral contemporary art. He is a contributing author in the catalog for *It's All True: Bruce Conner*, titled "*The life, death, and resurrection of Bruce Conner's CHILD*" (California University Press, 2016).

Other publications include *The Conservation of Joan Miro's Bronze Sculpture at the Museum of Modern Art*. Post-prints forthcoming for American Institute for Conservation/ Canadian Institute of Conservation Joint Annual Conference, Montreal, Canada, May 13 – 17, 2016; *The Eameses' La Chaise and its Delayed Production: A technical Study*. Future Talks 015, Process, The Making of Design and Modern Art Materials, Technologies and Conservation Strategies, October 28-30, 2015, Die Neue Sammlung, Pinakothek der Moderne, Munich, Germany; *Peeling Back the Layers: Eileen Gray's Brick Screens*. The International Institute for the Conservation of Historic Works, Vienna International Congress, The Decorative: Conservation of Applied Arts., Vienna Austria September 10-14, 2012, pp. S130-S137.; *Impermanence and Entropy: Collaborative Efforts Installing Contemporary Art*. JAIC: Journal of the American Institute for Conservation. (2008) 47:3-13.

Roger Griffith will be working with museums and universities in Japan to deliver a program of educational resources. The sabbatical would take place between January 2017 and June 2017, and he would be based in Tokyo. He has been invited to act as a visiting lecturer to a number of institutions, delivering a series of lectures, workshops and debates. He will also work with Modern and Contemporary Art institutions explore issues in the conservation of modern and contemporary art, and to develop collections management protocols and practices. The teaching would be in part classroom-based, and would also fully exploit the potential for visits to artists' studios, collections (both private and public), manufacturers and fabricators and private conservation studios. The program would be highly distinctive in Japan because there are virtually no conservation programs in modern and contemporary art, especially sculpture and designed objects, in the Japanese university sector. His contribution would be invaluable to young Japanese people seeking to make a contribution to the care and research of collections.